

日本メコン地域経済委員会訪ミャンマー経済ミッション 活動概要報告

日本メコン地域経済委員会
2019年12月

1. 日程:2019年11月13日(水)~17日(日)
2. 訪問先:ミャンマー(ヤンゴン、ヘホ)
3. 参加者:吉田朋史 団長(日本メコン地域経済委員会委員長・伊藤忠商事副社長)、
塩田 誠 副団長(同共同委員長・川崎重工業執行役員)、
山埜英樹 副団長(同共同委員長・住友商事常務執行役員)はじめ28名

4. 概要

日本・東京商工会議所 日本メコン地域経済委員会は、ミャンマーの経済や社会への理解を深め、日本・ミャンマー両国間の経済関係を一層深化させることを目的として同国にミッションを派遣した。ミャンマー連邦共和国商工会議所連合会(UMFCCI)との覚書に基づき、第15回目となる「日本・ミャンマー商工会議所ビジネス協議会合同会議」をヤンゴンで開催するとともに、ティラワ経済特区管理事務所、および、進出企業ミャンマー・ヤンマー社への訪問と、特徴ある観光資源を有するインレー湖周辺の視察を行った。

5. 主な活動の概要

【11月13日(水)】

①丸山駐ミャンマー日本大使によるブリーフィング兼夕食懇談会

11月13日(水)には丸山市郎駐ミャンマー日本国大使主催の歓迎夕食会が開催され、大使はじめ大使館スタッフの方々とミャンマー情勢に関する意見交換を行った。

【11月14日(木)】

②第15回日本・ミャンマー商工会議所ビジネス協議会合同会議

11月14日(木)の合同会議には両国から合計100名が参加。アウン・ソエ商務省次官は、基調講演の中で「ミャンマーの経済特区制度は、日本の協力により成功している。

企業登録がオンラインでできるなど利便性を向上させている」と述べた。UMFCCIのゾー・ミン・ウィン会頭は、「本年10月にアウン・サン・スー・チー国家最高顧問が東京で投資を呼びかけた」と報告した。

吉田委員長は、「ミャンマーは、新投資法や新会社法を制定するなど、外国企業に対する投資環境の整備を急ピッチに進めている」とミャンマーへの更なる投資に期待を寄せた。



キン・マウン・ティン国家最高顧問府副大臣

問府副大臣は、日ミャンマー両国の商工会議所の活動の歴史を高く評価し、「これからも継続可能で安心な社会を目指し、透明性高く、規則に基づく経済づくりに貢献していきたい」とのウィン・ミン大統領のメッセージを代読した。日本側から丸山市郎・駐ミャンマー日本国大使が安倍晋三・内閣総理大臣からの祝辞を披露し、日本は、ミャンマーの発展を重視し、都市と地方の均衡ある発展を願っており、「官民の投資により、今後改革の恩恵を広めていきたい」と意欲を示した。



ゾー・ミン・ウィン会頭(左)、
吉田委員長(右)



芝田 浩二 ANA ホールディングス上席執行役員

①ミャンマー観光産業における事業機会、②日本におけるミャンマー人材の拡大と人材育成の2つのテーマのセッションでは、両国参加者からのプレゼンテーションを交え、意見交換が行われた。

観光のセッションでは、ANA ホールディングスの芝田浩二上席執行役員が、観光業が日本で自動車輸出に次ぐ外貨収入源となっている例を示し、ミャンマーでも大きな可能性を持っていると示唆、観光客の利便性向上のために地方空港の整備などが必要であると提言した。ミャンマー側のチョー・ミン・ティン JTB ポールスター社会長は、ミャンマー国内の観光地を紹介、地方都市においてホテルや、日本料理店、カフェなどの整備が急務であると投資を呼びかけた。

人材のセッションでは、三井物産の田中聡顧問が、自社の人材育成支援の取り組みを紹介するとともに、日本の特定技能労働資格制度について紹介、UMFCCI のカイン・カイン・ヌエ共同書記長が、ミャンマーに若い労働力が多いことを紹介し、日本での特定技能、技能実習生増加への期待を述べた。



③ミャンマー日本商工会議所との懇談会兼昼食会

11月14日(木) 昼にはミャンマー日本商工会議所の真野会頭、根岸副会頭、川原副会頭、北尾副会頭、殿塚副会頭、中川総務部長を招き昼食会を催し、現地情勢について説明を聞いた。

④ティラワ経済特区進出企業視察

11月14日(木) 午後は、ヤンゴン近郊にあるティラワ経済特区内の管理事務所を訪問して、経済特区の概要と進出企業について説明を受けた後、すでに経済特区内で事業を開始しているヤンマー・ミャンマー社を訪問して、国内のサービス展開を中心とした同社の状況について説明を受けた。



ヤンマー・ミャンマー社視察

⑤UMFCCI 主催歓迎夕食会

ヤンゴン市内のパンパシフィックホテルにて、UMFCCI のゾー・ミン・ウィン会頭主催の夕食会が開催された。

【11月15日(金)】

⑥カックー遺跡視察

11月15日(金)には、国内線でミャンマーの中部にあるシャン州のへホに移動、約2500基の仏塔が林立して幻想的なカックー遺跡を訪問した。この地域は2000年まで外国人の立ち入りが禁止されていた地域。丘陵地帯であり、日本のような風景が広がる。へホ空港から2時間かかることもあり、外国人の観光客は少ない。



2500基の仏塔が連なるカックー遺跡を訪問

【11月16日(土)】

⑦インレー湖視察

11月16日(土)には、インレー湖を舟で移動し湖上に建立された寺院や、織物工場、水上生活の集落を視察した。この地域には、ヨーロッパからの観光客が多く、国際的な観光地としての発展が期待されている。一方で、ボートのエンジンによる騒音や水質悪化などのオーバーツーリズムに起因する問題への対応が課題として挙げられており、調和のとれた観光開発が求められている。



インレー湖最大の寺院ファウンドーウー・パゴダ

以上